

他地域講師招致による数寄屋等建築技術の職人育成研修実施方策の実践的検討

<調査概要>

■調査実施地域：神奈川県小田原市

■調査実施者：小田原市

- ・小田原市における歴史的風致の重要な構成要素の一つとして、数寄屋建築の形式を取り入れた建築物（「数寄屋等建築物」）が多く残っているが、この維持・保全に必要な伝統技術の継承方策として、実際の数寄屋等建築物を教材として職人育成研修を試験的に実践する調査を実施。
- ・京都市・金沢市等といった現代でも技術伝承が行われている地域のノウハウや講師招致の可能性についての知見をまとめ、研修参加者へのアンケートや職人・所有者等の様々な関係者による車座集会等での意見を分析し、小田原市のような比較的規模の小さい「歴史都市（歴史的建造物の絶対数が少ない都市）」において、持続的に運営できる職人育成の仕組みをまとめた。

<調査内容>

■技術伝承地等調査

【京都市・京町家作事組】

民間組織が独自採算で、職人育成や、建物の改修（調査・相談・設計を含む）、活用・メンテナンスを一体的に手がける。
背景として5万棟の京町家がある。

【金沢市・金沢職人大学校】

独自のキャンパスをもち、職人育成に特化しているが、行政が確固たる歴史的建造物の保全方針のもとで運営費等を全面的にバックアップしており、受講料も無料。

他地域講師の招致の可能性

単純に他地域から技術講師を招致することは困難。
地元で休眠している職人の発掘が必要となった。

■職人育成研修の試験的実践

技術伝承地等調査を踏まえた試験的研修を開催。

棟梁編・左官編・建具編・大工編等 計6回
各回とも座学と実技研修の2本立て
参加料：1,000円～2,500円（内容によって異なる）
参加者：のべ253名
講師：県内職人・有識者



座学だけであれば他地域講師の招致ができた

【受講者アンケート】

- 職人のほか建築士等の建築関係者が半数以上。（技術水準はバラバラ）
- 参加料については2500円設定で「高い」の回答がでた。
- 多くは「伝統工法を身に着けたい」等の積極的意思をもって参加。年齢も40歳以下の現役世代が約7割。
- その他一般参加者も7割が研修に対し協力的な意向。

■持続的で効果的な職人育成の仕組み検討

他地域の講師によらない地元職人の発掘が必要。また、技術伝承＝職人育成のみならず、育成した職人による歴史的建造物の改修と、その前提となる保全対象物件の活用の促進とを一体的に進める必要がある。

⇒実施には取組の中心を担う専門組織が必要

機能・活動形態としては京都市の取組みをモデルとしつつも背景となる歴史的建造物の数が異なるため独自採算は難しく、これを行政が資金・物的にバックアップする金沢市の取組みを部分的に組み合わせることが理想。

⇒小田原市独特の職人育成の仕組み

- * 講師確保、職人育成及びその過程として歴史的建造物の改修・活用等を担う民間組織を設置。
- * 行政において歴史的建造物保全の基本方針の策定、担当所管の設置を行い、資金・物資面でバックアップ。

●来年度以降への課題

建物の維持保存を着実に進めるためには、受講者の技術水準をそろえる必要がある。

⇒職人組合や自主研究会との連携の推進により、複数段階のカリキュラムを検討する。

地元で確保できない職人技術がでた場合の対処方策。